

情報通信研究機構

# NICT 先端研究

①

TYPE OF  
INDUSTRY



科学技術・大学

TYPE OF  
INDUSTRY

暗号技術はインターネット、無線LAN、携帯電話、交通系ICカード、さらには自動車の中にまで、とまさに日常の情報通信インフラの安心・安全を支えるために、なくては

ならない技術となつて 検査が可能である」と制御するデータのセキュリティや個人の利用されている暗号技術の研究機関としてわが国が「メモリや消費電力等に制約のあるデバイスの実装可能」が重要な課題となる。CR  
暗号技術の新たな展開 能を備えた暗号技術で信頼性の高いIoT  
を指し、日々研究 あり。あらゆるものが社会を支える切り札でトと呼ばれるこの活動は、総務省と経産省の  
私たちが取り組んで あり、私たちの生活が便利になる期待される技術や攻撃などの脅威から継続して行っている。「暗号化したまま 一方、そのシステムを

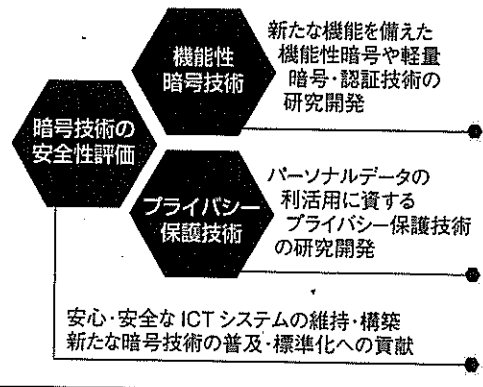
## IOT支える暗号技術開発

サイバーセキュリティ研究所・盛合 志帆  
セキュリティ基盤研究室室長

93年京大卒業後、NTT、ソニーを経て12年より現職。暗号技術の設計、解析、標準化等に従事。平成26年度科学分野の文部科学大臣表彰等受賞。博士（工学）。



### セキュリティ基盤研究室の研究領域



また、今後の利用が「耐量子計算機暗号」に実現を見据えた募した。さらに、パーソナルデータの利活用にも貢献するためのプライバシー保護技術の研究開発を進めている。JST CRESTで採択された研究課題の下で、データを暗号化したまま深層学習などの人工知能(AI)技術を活用した解析を行う技術について検討を行っている。また、改正個人情報保護法で導入された「匿名加工情報」について、加工されたデータから個人を識別できるリスクがどれほどあるかを解析するツールの設計検討なども進めている。(火曜日掲載)